

第七次甲府市総合計画説明会 会議録（穴切地区）

日 時	令和8年5月18日（月）午後7時00分～午後8時25分
会 場	旧穴切小学校体育館
参 加 者	67名（市長等及び関係職員含む）
次 第	1 市長説明 2 意見交換 3 地区からの挨拶
意見交換記録	
質問	<p>・ 高齢者の健康長寿について</p> <p>総合計画の基本目標1で、高齢者についての話がほとんどでてこない。私が穴切地区の社会福祉協議会の会長を引き受けたのは、高齢化社会を迎え、いかに高齢者がいきいきと生活できる社会をつくるかということが、今、一番大事だと思ったからだ。ウェルビーイングを尊重するなら、まず健康で自分の思いを充実できる社会をつくるのが重要であるが、高齢者の健康長寿についてどのように位置づけているのか聞きたい。</p>
樋口市長	<p>決して高齢者をないがしろにしているつもりはない。第六次総合計画でも同じように地域で高齢者がいきいきと活躍できるまちを創ってきており、それと同じ方向性で、更に充実させていくために総合計画を進めている。住み慣れた地域で自分らしく暮らせる福祉の充実ということで、これまでにやってきたことに加えて、新たに認知症高齢者等のGPS機能付き機器購入費等の助成、介護認定調査への訪問調査モバイル導入などをやっていく。具体的な高齢者支援や生涯学習などの施策は、総合計画の下に一つ一つつながるものなので、しっかりやっていきたい。</p>
意見	<p>一つ気になったのが、高齢化社会では、高齢者が健康長寿になれるような仕組みを考えることが大事である。そういう視点をぜひ考えていただきたい。</p>
質問	<p>・ 空き家等の有効活用について</p> <p>当地区には、空き家が数多く散見され、地区の防災や防犯の面からも大きな課題であると感じている。こうした中、当地区</p>

樋口市長

内においては、市の助成金を活用して空き家を改修し、障がい者支援施設を整備するなど、空き家を有効活用する動きが出ている。

一方、空き家の中には、倒壊寸前にも見える空き家もあり、地区で所有者に対応を促すことは限界があると考えている。こうしたことから、空き家の活用や除却等に関する市の考え方についてお教えいただきたい。

本市では、まちづくりの観点から空き家を地域資源として捉え、空き家を改修して地域の交流拠点として活用する場合に、その改修費用の一部を支援する「地域活性化施設整備費補助制度」を設けている。

穴切地区においては、この制度を市内で初めて活用し、障がい者通所事業所を併設する地域食堂が開所され、オープンの際には、私も開所式にお招きいただいた。現在は、子どもから高齢者まで、地域の方が気軽に立ち寄れる交流の場となっている。

加えて、空き家を売りたい方と買いたい方のマッチングを行う「空き家バンク制度」と、成約物件に対し空き家の改修費用などの助成を行う「空き家バンク活用促進助成制度」により、利活用の促進に努めているところである。

また、管理が不全な空き家に対しましては、地域の皆様から情報もいただく中で、所有者に対して通知の送付や指導等を行い、改善していただけるよう取り組んでいる。

通知や指導による改善が見られず、保安上、衛生上、著しく問題となる場合には、法令に基づく特定空家等として、勧告や命令など段階的な処分を行っている。

昨年度、穴切地区では、火災により倒壊の恐れがある空き家について、所有者に対し除却に向けた勧告や命令などの措置を行ったが、改善等が見られなかったことから、行政代執行により除却したところである。

空き家問題は様々なケースがあるので、本市では、総合的な窓口として空き家対策課内に「空き家相談窓口」を設置しており、空き家は利活用可能な状態のうちに対応を図ることが肝要であるので、空き家の利活用や困りごとがあったら、ご相談をいただけるようお願いする。

<p>質問</p>	<p>・都市計画道路「宝二丁目北新線」の早期整備について</p> <p>都市基盤の整備やまちの活力向上のためには、当連合自治会内で計画されている「宝二丁目北新線」という甲府市の都市計画道路の整備が早期に望まれるところである。</p> <p>とりわけ、国道52号線（通称美術館通り）から飯田グラウンド通りまでの一車線道路は通勤時の近道となっており、子どもの通学や高齢者の通行の妨げとなっている。計画から20年以上経っているが見通しはあるのか。</p> <p>この区間だけでも早期整備はできないのか。</p>
<p>まちづくり部長</p>	<p>都市計画道路は、本市を含む甲府都市計画区域の骨格となる幹線道路であり、甲府盆地をはじめ、県内経済を支える重要な役割を担うとともに、市民の皆様の日常生活の活動基盤となる都市施設である。</p> <p>本市では、効果的・効率的な都市計画道路の整備推進を図るため、優先整備路線6路線7工区を位置付けた「都市計画道路整備プログラム」を策定し、現在、城東三丁目敷島線をはじめ上位3路線を事業化し、整備を進めている。</p> <p>ご質問の宝二丁目北新線は、優先整備路線に位置付けていることから、事業化については、現在進めている整備路線の進捗を踏まえ、検討していく。</p> <p>また、現道における交通対策については、お子様をはじめ利用される方の安全確保について、警察等と協議し検討していく。</p>
<p>質問</p>	<p>計画ができてから20年以上経っている。市全体として優先順位が低いのかもしれないが、見通しとして具体的には無理かもしれないが、どうなのか。</p>
<p>まちづくり部長</p>	<p>鋭意、努力して進めているところであるが、道路用地の取得については皆様の理解をいただくことが不可欠となる。事業の必要性をご理解していただくとともに、そこにお住まいの方、土地を借りられている方など、そこに残った土地でどのように使うのか、移転先を確保できるのかなど、個々の事情を抱える中、生活を大きく変える移転をしていただく中で、事業を進めている。なかなか見通しというところで明確に答えられないが、</p>

<p>質問</p>	<p>一生懸命に整備を推進し、事業の見通しがついたところでお答えしたい。</p> <p>・旧穴切小学校校舎の活用策について 当地区には、旧穴切小学校校舎に「甲府市協働支援センター」が設置されている。 現在は、空き教室などについては、会議などをメインに活用されているようだが、人同士のつながりをさらに深めるため、当該センターを穴切地区の各団体の交流スペースに活用できないか。 今後の「甲府市協働支援センター」の具体的な活用策についてお伺いする。</p>
<p>質問</p>	<p>高齢者が多く、有価物の回収が大変である。「甲府市協働支援センター」のところに回収ステーションを設けていただけないか。</p>
<p>市民部長</p>	<p>多様化、複雑化していく様々な課題やニーズに対応し、地域が将来に向けて持続的に存続、発展していくためには、子どもから高齢者まで幅広い方々を対象とする地域ネットワークを構築し、多様な主体との協働により、地域課題の解決に向けた具体的な取組ができるよう支援する必要があることから、その活動拠点として令和2年に「協働支援センター」を設置したところである。</p> <p>施設内の会議室や研修室等は、利用登録団体による会議や各種研修会のほか、「いきいきサロン」や子ども・子育て世代を対象としたイベントの開催など、幅広く活用されている。</p> <p>こうした中、各団体間の交流については、各種団体等で構成する「協働支援センターネットワーク会議」を通じ、引き続き、市民活動団体が相互に情報交換と交流を深めるとともに、当センターのより効果的な利活用について意見交換を行うなど、機能向上に繋げていきたいと考えている。</p> <p>今後については、子どもから高齢者まで幅広い年代の方々が気軽に利用し、交流を深める場として引き続き活用する中で、地域活動の担い手の確保や負担軽減につなげる各種講座の開催をはじめ、相談を通じて地域課題を共有し、多様な主体と連携</p>

<p>企画部長</p>	<p>して、その課題の解決に向け支援するなど、「甲府市協働支援センター」を拠点とした協働のまちづくりの推進に努めていく</p> <p>資源物の回収ステーションの設置については様々な課題があることから、改めて環境部のほうで地域の実情などのお話をお伺いした上で検討を進めていきたい。</p>
<p>意見</p>	<p>春日小学校は舞鶴小学校になり、相生小学校は市の施設になったが、穴切小学校は廃校になったことで、いろんなことが縮小している状況である。市が「甲府市協働支援センター」設置でお茶を濁しているようでは、中心部に近い穴切地区は大変な状況が近いと思う。市がこのことに問題意識をどのくらい持っているのかということだ。</p>
<p>質問</p>	<p>・道路整備について</p> <p>飯田地区は道路が狭く、特に県立大学から東の道路から奥へ入っていく、通称「なか通り」という狭い道路がある。入口が幅2.5m、奥が3.0m、入り口が狭すぎて救急車の出入りがスムーズにできない。左折はできるが右折では入れない。火災発生時では通常の消防車が入れない。宅配業者も入れない状態である。何とかならないか。</p>
<p>まちづくり部長</p>	<p>道路整備ということで、市内全域において多くの要望をいただいている。市としては効率的、総合的に見ながら整備をしているところであるが、基本的には狭隘道路については建物の建て替えに伴って、幅員が4m未満の道路については道路の中心から2m下がってもらって建て替えをしている。後は、地域の皆様と協議して、基本的には無償で土地を寄付していただくことにより、全体的に地域性を見ながら整備している。</p> <p>いずれにしても土地の権利関係があるので現場等を調べさせていただき、ご相談させていただく。</p>
<p>意見</p>	<p>県立大学の周りの道路の話であるが、文教地区として見ると空き家だらけで道路が狭い、なさけない状況である。本来、視点の高い文教地区としての都市計画をつくって、例えば小湯川の一部を暗渠にしたりして、きちんとしたプランをつくらない</p>

	<p>とひどい状況である。狭い道路のところに管理が行き届いていない空き家が何か所もあり大変である。</p> <p>文教地区として、県のほうで工学部系の学科が50人定員で最終的に全体で200人増えるから校舎を建てるとか言っているが、周辺の飯田地区を、今後、道の整備にしても、どのような計画を立ててやっていくかということが、今の説明では分からない。そういう思いを持っているから、わざわざ立ち上がって質問をしたと思う。そういうことも念頭に置いていただきたい。</p> <p>現状では飯田地区が文教地区なんて言えない、これで県立大学の文系と工学系ができるようになったらどうするのかということ。恥ずかしく思う。</p>
意見	<p>・道路整備について</p> <p>飯田地区は文教地区で学校が5つある。その中で去年から自転車用の舗装がされたが、それで安全なのか、道路整備ができていないのか。特に西中学校の子どもたちが安全に通学できる道路がない。要望として、もっと自転車安全に通れるような、高齢者も子どもも安心して通れる道路整備をお願いしたい。</p>
意見	<p>・多文化共生について</p> <p>説明会で多文化共生について全く触れていない。10年のスパンで魅力あふれる甲府をつくる時に様々な課題はあるかと思うが、何も見えなかったのが残念である。私はずっと仙台で働いていたが、仙台では外国人材の活用がまちのプランにあり、学校でも運用していて、いわゆる国際都市が生まれたのだと感じた。重視していただければありがたい。</p>
意見	<p>・児童、生徒の挨拶に対するお礼について</p> <p>過日、舞鶴小学校、西中学校を訪問した。私が校舎内に入った瞬間に児童、生徒みんなが「こんにちは」と声をかけてくれて、これはすごいなと思った。舞鶴小学校、西中学校、なかなかやるなというところを市長や教育長、教育部長などのほうから、ぜひほめてあげて欲しい。</p>
樋口市長	<p>大勢の皆様から、質問、多くの厳しい意見、要望をいただき</p>

(まとめ)	<p>ありがとうございました。甲府に住んでいる方、訪れる方など、甲府市は中核市の中でも外国人の割合が高い市でもあるので、全ての人のウェルビーイングの向上のためにまちづくりを進めていきたい。</p> <p>いただいた意見・要望はしっかり受け止め、現状を把握させていただく中で、一つ一つ問題を解決し、次につなげていきたいと思うので、よろしくお願いします。</p>
地区からの挨拶要旨	
穴切地区自治会連合会会長	<p>少し厳しいことを言ってしまうと申し訳なかったが、市長には丁寧な説明をしていただきありがとうございました。</p> <p>飯田地区の問題は、空き家が多い、道が狭いなど、すぐには解決できない問題かもしれないが、市が高い視点で国、県に対して要望したり、市でできることはやってほしい。</p> <p>寿・宝地区については、宝二丁目北新線をぜひ、できるだけ早く整備してほしい。高齢者や外国人共生について何も触れていないように感じた。</p> <p>随分勝手なことを言ってしまったが、活発な議論ができてよかったと思う。今日はどうもありがとうございました。</p>